

米子市宇田川地区北尾自治会

～女性の力を自治会にも活かしたい～



北尾自治会は、米子市淀江町宇田川地区(285世帯)の11自治会のひとつで、米子白鳳高校と鳥取県の名水「天の真名井」の間に位置する静かな集落です。

今まで男性ばかりだった役員に、女性が登用できるよう自治会の規約を改正し、年々役員に女性が増え、男女が協力して自治会を運営しています。規約改正を中心となって行った田中英省(たなかひでみ)さんと今年度女性自治会長の野間佳代子(のまかよこ)さんにお話を伺いました。

北尾自治会の概要

■米子市宇田川地区北尾自治会 加入世帯:約20世帯

■役員 会長(女性)、副会長(女性)、委員3名(うち1名女性)、会計係、監事2名

■自治会規約

現行の規約は令和7年3月に改正したもので、「委員3名のうち少なくとも1名は女性」という規定を新たに追記した。「委員」の選出の際には、従来は投票用紙に1名の名前を記載していたが、その規定を担保するため、こちらも令和7年度の委員から男女1名ずつ2名に投票することに変更し、結果的に男女いずれも1名は必ず選出できる仕組みを作った。

男女共同参画を進める規約改正について(田中さんより)

<女性参画への思い>

12年前、初めて自治会長に就任した時に、自治会の会合に女性が全く参加していないことに違和感を感じた。なぜなら、長年教職にあって、管理職も含めて女性が当たり前のように活躍している職場にいたから。学校では校長、教頭に女性が多くてそれが普通。学校現場だけでなく家庭においても女性の持つ力を実感しており、地域や自治会にも活かすべきだと考えていた。

<規約改正への道のり>

自治会長に就任したときに、総会の場で、「次期役員には女性を入れよう」と提案したところ、女性から反対の声が上がった。過負担感や、今後の人間関係についての心配などが理由だった。役員のうち投票により3名を決める「委員」に、男性と女性1名ずつ投票しようと話をした臨んだが、蓋を開けたら女性への票はゼロだった。

役員会の中では「何とかせんと。来年とかどうだ?」と言って少しずつ意識の醸成を図ってきたが、それまでに培われてきた意識を変えるのは難しく、10年経ってしまった。

その間に社会全体で女性活躍が進んできたことも追い風になると思い、規約の中できちんと位置付けてしまえば意識も変わるのではと、改正案を準備して、同時に適材と見込んだ人たちにも説明

し、令和7年3月に規約改正を提案することに舵を切った。

改正案に対しては役員間でも「無理だ」、「逆に困るんじゃないの」、「無理やりさせられたという認識になるかも」と、積極的に賛成というよりは、むしろ懸念する意見が多かったが、ダメもとで総会に提案したところ承認され、投票を経て初めて女性が役員に就任することになった。役員に女性が1人入ったことで、女性も役員に入りやすくなり、令和7年度に野間さんが副会長に就いていただけることになった。令和8年度には初めての女性自治会長(野間さん)が誕生するとともに、次期会長候補の副会長も女性という体制がとれている。

女性が役員に増えたと言っても、女性に負担を負わすのではなく、男女協力して、時には役割分担しながら一緒に運営できていると感じる。

<今後について>

この地区でも高齢化が進み、「これまでどおり」が通用しない今後10年になりそうなので、いかに今までの行事を見直し、誰もが運営に参加しやすい方法などを考えていかなければいけない。だからこそ、みんなで協力して盛り上げて、住みやすい地域にしていこうというのが男女共同参画だと自分は思う。

女性自治会長として思うこと(野間さんより)

<女性自治会長誕生の経緯>

規約改正とともに女性が役員に就いたことで流れができ、令和7年度に副会長を引き受け、今年度(令和8年度)初めての女性の自治会長に就任した。次年度の会長には今年度の副会長になる慣例で、今年度の副会長は女性なので、来年度の自治会長も女性の予定。

次年度の副会長(2年後の会長)の選任にあたっては、これまでも役員が候補者に直接申し入れをしてきており、自分も以前から頼まれていたこともあり、退職を契機に引き受けた。自分が会長になったことで、他の女性の方も役員を引き受けてくれるようになってきている。

<よくなったところと苦勞を感じるところ>

役員5名のうち3名が女性になり意見が出しやすくなり助かっている。地区全体で道路沿いにコスモスを植える景観美化活動に取り組んでいて、種まきや除草などを集まって実施している。除草後の処分が重労働だが、役員全員で協力しながらやっており、今後も協力体制が必要と考えている。

<今後の抱負>

女性の場合、家庭での仕事をこなしながら役員と両立させることが難しく、断る理由のひとつにもなっていると思うので、家族の理解と協力も大切だと思う。運動会やお祭りといった行事や学校関係の自治会の役割など、今後負担感をなるべく減らして、参加しやすい自治会活動にしていきたいと考えている。